

徳島県の土砂災害の歴史

今村隆正(株式会社 防災地理調査)

§1. はじめに

筆者は、日本全国の歴史時代における土砂災害の調査研究を続けている。本発表は、第36回歴史地震研究会の会場である徳島県の事例について、これまでの調査成果を発表するものである。

徳島県は、四国東部に位置し、全面積の約8割が山地からなる。県北は吉野川、県南は勝浦川や那賀川などの主流河川が東流する。

県南部は日本でも有数の多雨地域で、年間降水量は5,000mmに達するときもあり、上那珂町海川では日降水量の日本記録(1,317mm)が観測されている。

地質は、和泉層群、三波川帯、秩父帯、四万十帯の順に北から南へ配列しており、三波川帯南縁には御荷鉾緑色岩が分布し、地すべり地帯となっている。

徳島県において過去に発生した主な土砂災害は降雨を誘因としている事例が多い。

§2. 主な土砂災害事例

(1) 山犬嶽の崩壊

元禄十四年八月十八日(1701年9月20日)、七日七夜の大雨が続いた後、徳島県勝浦郡上勝町にある山犬嶽の南側斜面が崩壊したと伝えられている。

山犬嶽の麓の瀬津地区では土砂が田畑を埋め、一門屋で川を堰止めたために瀬津の瀬にあった家が戸越山の神の森まで浮き上がる等、甚大な被害が発生した。崩壊地の滑落崖の前面には、直径5m以上の岩塊が見られるツカと呼ばれる岩屑堆積物が広がっている。

(2) 茶園嶽の崩壊

明治18年(1885)7月1日14時、紀州南端に接近した台風により未曾有の豪雨がもたらされたため、徳島県脇町の茶園嶽で大規模な崩壊が発生し、曾江谷川を堰止め、その後決壊し、下流域に被害をもたらした。

(3) 保瀬の崩壊

明治25年(1892)7月25日、海部川上流や那賀川上流を襲った豪雨を誘因とし、大規模な崩壊が発生して海部川を堰止めた。このため、4戸埋没、8戸流失、死者47名に及んだという記録が残されている。

警戒情報が下流町村に迅速に伝達され、避難行動がなされ、決壊による人的被害は発生しなかった。

(4) 高磯山の崩壊

明治25年(1892)7月25日午前11時頃、徳島県上那賀町の高磯山で大規模な崩壊が発生し、那賀川本川を堰止め、巨大な天然ダムを形成し、53時間後の27日午後4時に決壊した。

表1 徳島県の主な土砂災害年表

発生日月	誘因	発生地点	土砂災害概要	位置
1701.9.20 元禄十四年 八月十八日	降雨	上勝町 山犬嶽	豪雨により、上勝町の山犬嶽で大崩壊が発生。土砂のほとんどは山腹に堆積し、多数の巨岩が奇勝を作り、現在は観光地となっている。	①
1854.12.24 安政元年 十一月五日	地震	上勝町 田野々 刈揃山	上勝町田野々の刈揃山(かぞろやま)北側に亀裂が発生。翌年の降雨時に刈揃山で崩壊が発生。	②
		西祖谷山村 (三好市) 善徳	吉野川右支川の祖谷川中流部善徳の山腹に崩壊が発生。現在も地すべり対策事業が行われている。	③
1885 明治18年 7月1日	台風	脇町 (美馬市) 茶園嶽	台風による豪雨で、茶園嶽で大崩壊が発生。曾江谷川を堰止め天然ダムを形成・決壊。	④
1892 明治25年 7月25日	降雨	上那賀町 (那賀町) 高磯山	高磯山で発生した大規模崩壊により那賀川に天然ダムが形成。その後決壊したが、避難行動が良く、二次災害は死者は3人とどまった。	⑤
		海南町 (海陽町) 保瀬	大崩壊し、海部川を堰止め天然ダムを形成。その後決壊したが、避難行動が良く、二次災害による人的被害はなかった。	⑥
1965 昭和40年 9月10日	台風	東祖谷山村 (三好市) 大西	大西のザレで崩壊が発生。	⑦
2004 平成16年 7月30日~8月1日	台風	那賀町 阿津江	木沢村阿津江で大規模な崩壊が発生し、土砂は坂州木頭川に達した。	⑧
2018 平成30年 7月7日	台風	山城町 仏子	前線や台風第7号の影響により、西日本を中心に全国的に広い範囲で記録的な大雨となった。この影響で三好市山城町仏子地区では、幅70m、長さ350mの地すべりが発生。	⑨

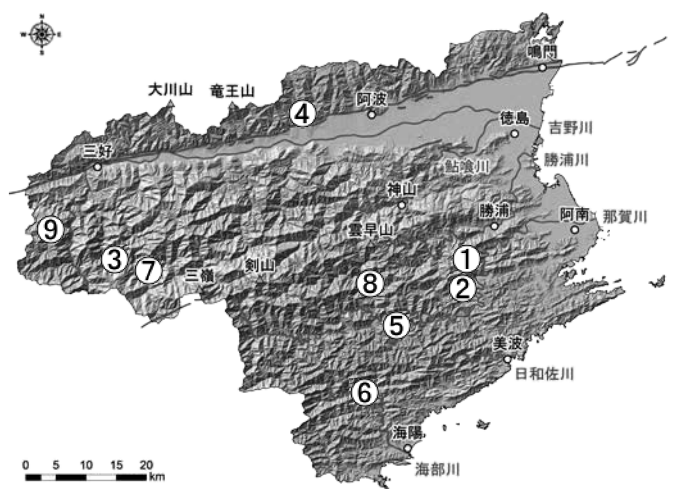


図1 徳島県の主な土砂災害発生位置図